

ろう者の女性の監督が映画

同じ障害持つ男性描く



「映画に出演するのは初めて。私にとっても大きな挑戦となる作品」と語る監督の今村さん

エンピツ」が5月5日から、大阪市淀川区のシアターセブンで公開される。ろう者の今村彩子さん(33)が監督を務め、映画にも出演している。

主人公は、静岡でサーフショップを営む太田辰郎さん(50)。太田さんは、来店者には一杯のコーヒーを笑顔で勧め、鉛筆を手に筆談を始める。「お客さんとの距離がすぐに縮まるのを何度も見てきた」と今村さん。

手話を知らない相手には少し距離を置くなど、窮屈さを感じていた今村さんだったが、「自分が作り出した

壁だと気づいた」と振り返る。

撮影には1年半をかけた。太田さんが20年勤めた会社を辞め、夢だったサーフショップを営む経緯やサーフボード作りの修業、悩みを丹念に追った。太田さんの周囲の人たちとの交流を通じて、今村さんの心が解き放たれていく過程もうかがえる。

今村さんは「手話ができるか、できなにかは関係なく、伝えたいという思いが一番大切。太田さんの生き方から、何か一つでも感じ取ってもらえたら」と話す。

6月1日まで。一般、大学生1300円。問い合わせはシアターセブン(06・4862・7733)へ。

聴覚に障害を持つ男性の生き方を描くドキュメンタリー映画「珈琲と